

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
3. 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
4. 学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。

- ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践と1人1台端末の取組みによるICT機器を活用した授業を融合し、経験の少ない教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。ICT機器の活用については感染症対策としても、一層取組みを進める。
- イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業力を生徒を主体とした「学習力」という視点でとらえなおす。授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、学習力向上および評価と指導の一体化をめざし、公開授業や校内研究協議を活性化する。
- ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。
- エ 「産業社会と人間」・「総合的な探究」を土台とした3年間を見据えた「探求学習」の実施。

※学校教育自己診断（生徒）における「わかりやすい授業」の肯定率を、R6年度には73%以上をめざす。（R1 65.1%、R2 65.7%、R3 70.5%）

※R4年度には進路未定率1%以下を達成し、R6年度までに0%をめざす。（R1 1.0%、R2 1.8%、R3 1.2%）

2 キャリア教育、人権教育の推進

(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

- ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR等を活用して、3年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。
- イ 「自分はどのように生きるのか」を考えさせ、「自分の生き方の指針」を生徒の中に作らせるための、人権教育とキャリア教育を推進する。
- ウ 生徒自らが、挨拶、礼儀、身だしなみ等、規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。
- エ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。

※R6年度には年間遅刻総数3800件未満をめざす。（R3年度 4432件）

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

- ア 学校行事や特別活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。
- イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解し共に学び、意思疎通を図ることによって、将来において共生、協働できる姿勢をはぐくむ。
- ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。
- エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

- ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。
- イ 学校ホームページを活用し、学校情報発信を積極的に行う。

※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、R6年度には78%以上をめざす。

（R1 67.8%、R2 71.0%、R3 76.4%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【1 確かな学力の育成】 ()内は昨年比%</p> <p>○自己診断—生徒から、 「わかりやすく楽しい授業」61.2% (-8.7)、 「コンピュータを使う機会が多い」59.9% (-4.8)、 「先生がICT機器を活用している」93.7% (+1.6) 「考えをまとめたり発表することが多い」74.9% (-3.4) 「教え方に工夫をしている先生が多い」76.0% (-3.1)。</p> <p>○自己診断—保護者から 「子どもは授業はわかりやすく楽しいと言ってる」65.4% (+10.7)</p> <p>○自己診断—教員から、 「教材の精選・工夫を行っている」96.6% (+16.0)、 「学習指導の方法等、他教科の担当者と話し合う機会がある」67.2% (+20.0) 「生徒がICT機器を使用する授業が多い」72.4% (+14.1) 「教員がICT機器を活用する授業が多い」89.7% (-2.0)。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向け、観点別評価導入に合わせて生徒主体の「学習力」の視点を大切にしたい。そのため、教員は「教材の精選工夫を行い」「他の教科と話し合い」「生徒のICT機器の活用を進めた」ことがわかる。一方で生徒の評価では「わかりやすく楽しい授業」が特に低く、教員の工夫が活かされていない(生徒の自己診断では、28項目中の24項目で昨年度を下回った)。それぞれの教員は、主体的・対話的で深い学びに向けた様々な授業展開を行っているのだが、それが共有できていないのが非常に残念である。生徒が「わかった!」と感じる授業展開を共有できる仕掛けとして、本年度も実施した授業公開が普段から当たり前ができるよう取組みたい。なお、「わかりやすく楽しい授業」は3年生では73%、「教え方に工夫」は81%である。3年で自分に合った科目が選択できる総合学科の特徴がよく表れた結果でもあるといえる。</p> <p>【2 キャリア教育、人権教育の推進】 ()内は昨年比/一昨年比%</p> <p>○自己診断—生徒から 「進路や生き方について考える機会」74.9% (-5.9) 「進路についての情報をよく知らせてくれる」82.7% (+1.5) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」79.3% (-3.4/-7.5) 「人権の大切さについて学ぶ機会」80.4% (-3.1/-8.9) 「学校は生徒の意見をよく聞く」71.8% (-0.4/+0.9) 「学校生活についての先生の指導には納得できる」66.2% (-1.9/+3.3) 「先生はいろんな問題を見逃さず対応する」69.3% (-2.0/+0.5)。</p> <p>3年間通して行っているキャリア教育については一定の成果が上がっていると考えられる。今後は出口のさらに先まで見据えたキャリア教育と科目選択のガイダンスを連携して実施し、自分の進路のイメージをつかむとともに、授業へのモチベーションの向上に結びつけたいと考えている。人権教育は本校が大切にしていることであり、高い肯定率であるが微減が続いている。教員の意識向上も含め、今後も継続的に取組む必要がある。</p> <p>生活指導に対しては、様々な課題を抱えた生徒がいる中、昨年度から「生徒に寄り添う」ことを大切に、教員がカウンセリングマインドを持って接するようになってきた。本年度は昨年度から微減しているものの、生徒との良好な関係は続いていると考える。</p> <p>【3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成】</p> <p>○自己診断—生徒から 「行事はみんなが楽しく行えるよう工夫されている」88.7% (±0) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」74.5% (-1.2/+3.5) 「担任以外で保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」53.7% (-7.7/-5.4)</p> <p>○自己診断—保護者から 「教育情報について提供の努力をしている」90.4% (+2.4)</p> <p>コロナ禍で行事に制限があった昨年度までと異なり、本年度はほぼ平常通り行事が行えた。生徒は積極的に行事に取組み達成感や満足感を得られた。生徒の活動を陰から支えた生徒会執行部の生徒や生徒会部・3学年団の教員の活躍も大きい。今後も、生徒をリスペクトした対応を意識し、信頼関係をよりいっそう強くするとともに、教員に気軽に相談できるようにしていく。</p>	<p>○第1回(6月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革が最重要。教員の帰宅時間をどう早めるかについて検討してほしい。また、授業が本務であるので、事務量の削減をどう早めるかについても、一人でできること、集団でできることといったように考えてほしい。研修についても、現在はさまざまな変化があるため、情報を得るために研修は必要である。それを工夫できれば。例えば、特定の人のみ参加し、その参加者から他の人に伝えるといったような方法もある。 ・保護者との連携はきちんとしてもらいたい。夜間など緊急時に対応できる体制も検討してほしい。 ・懲戒件数について、件数だけでなく内容にも注意してほしい。 ・新入生が貝塚高校の魅力を知った上で入学していることは素晴らしい。今後も魅力をどんどん発信していくことをお願いしたい。 <p>○第2回(10月19日) 授業見学も含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目選択は1年にはないのか? → 1年は基礎力を高め、2年からパックに分かれて選択をする。新1年の新教育課程から卒業後を意識したパック構成にしているので、進学結果が楽しみである。 ・自立支援コースのオープンスクールは毎年参加数が多く期待している。本校の特徴である自立支援コースの広報活動を充実させてほしい。 ・授業見学で学校の雰囲気を知れて良かった。生徒と教員との距離感が近いのが良く、生徒に親身に向き合っている様子が感じられ、非常に信頼できる。 ・生徒中には寝ている生徒もいたが、そんなに多くないと思う。先生の工夫が感じられる。 ・自立支援コース生の授業でタブレットやスマホを活用したり英語を話していたのがすごい。実際の生活の場で使える英語を身につけている。 ・世界のインクルーシブ教育が話題になっているが、よくわからず、全国でも失敗しているケースがある。その中で、「ともに学ぶ教育」を実施することを大切にし、インクルーシブ教育を達成してもらいたい。 ・その意味でも、スクール・ミッションの案は素晴らしいと思う。次回もこの会議で話し合っていきたい。 ・キャリア教育については、キャリアプランマトリックスを参考にして考えてほしい。 <p>○第3回(2月8日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻が増加した原因についての分析が必要である。 → 年次が上がるにつれて遅刻が増えている。細かい分析は出来ていないが、近隣他校でも本年は増えている。コロナの影響で体調の悪いときは休んでもいいということで、遅刻への「罪悪感」が減っていること、また、本校生の特徴として、学校が好きで遅れてでも学校に登校する生徒が一定いるというものの原因のひとつであると考えている。 ・どんな貝塚高校生にしていくのか考えさせられた。人権教育、キャリア教育が一つの力になるが、自己診断で人権に関する割合が5ポイント下がっているのは気になる。コロナの状況やひとり親家庭の増加の中で、家庭での課題を抱えた生徒も多くなっている。 ・UNESCOが日本教育を批判し「分けて実施する特別支援教育は差別である」と唱えている。インクルーシブ教育に取り組んでいる自立支援コースのある貝塚高校として、子どもたちに必要な支援とはどのようなものなのか、もう1度考え直してみたいと思った。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2・R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。</p> <p>ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、経験の浅い教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業力を生徒を主体とした「学習力」という視点でとらえなおし、授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、学習力向上および評価と指導の一体化をめざし、公開授業や校内研究協議を活性化する。</p> <p>ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。</p>	<p>(1) ア・学習力向上チームを中心に、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開の工夫を行い、「生徒にとってわかりやすい授業」「生徒が主体的に参加できる授業」の構築に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策と学習力向上のため、ICT機器を授業に一層活用できるように授業を工夫する。 <p>イ・観点別評価の導入に伴い、指導と評価の一体化の観点から、「生徒がやる気の出る評価」について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望生徒の増加を踏まえ、自学自習の姿勢を涵養するため、自習室の開室時間を生徒の希望に応じて柔軟に対応する。 ・進路HR、進学説明会等を通じて、多様化する入試制度を生徒にも保護者にも情報提供し、理解を深めてもらう。 ・自分の能力に応じた級の漢字検定、英語検定を受けるよう奨励することで、学習意欲を向上させ、達成感を持たせる。 ・「お互いに高めあう教員集団」の育成をめざし、全教員で教科の枠を超えてグループを作り、グループ内で相互授業見学期間を設け、その後、研究協議を行う。 ・教員の放課後の時間の一層の確保のため、職員会議を月1回とし、各種研修を年度当初から行事計画に入れる。ICT機器による連絡手段を活用し、日常の連絡、情報共有、周知を図る。また、行事前における生徒の最終下校時刻を設定し、生徒も教員も負担加重のないように工夫する。 <p>ウ・自立支援コース生徒の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携を強化する。</p>	<p>(1) ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」70%以上を堅持。（R3 70.5%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」79.4%を80%に。 ・自己診断（教員）「ICTを活用した授業が多い」92%を堅持。[R2 92.1%、R3 92.1%] <p>イ・自習室利用生徒数を300人以上に。[R3 296人]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切にに応じてくれる」83.3%を85%に。 ・自己診断（保護者）「教育情報について提供の努力をしている」90%を堅持。 <p>[R2 90.6%、R3 90.1%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職一次合格率、85%以上に。[R3 一次合格率78%] ・進路未定率を1%未満に。 <p>[R2 1.8%、R3 1.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定受験者数100名以上。合格率65%以上に [R3 コロナ禍で予定回数実施できず] ・英語検定受験者数120名以上。合格率60%以上に [R3 80名受験、合格率51%] <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（教職員）の「学習指導の方法等について他教科の担当者とは話し合う機会がある」70%以上に。 [R2 81.6%、R3 47.2%] ・自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能している」48.6%を70%に。 ・自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ」62.9%を75%に。 <p>ウ・自立支援コース生の希望進路の実現100%[R3 100%]</p>	<p>(1) ア・自己診断「わかりやすい授業」61.2%（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教え方に工夫をしている」76.0%（△） ・「ICT活用授業が多い」89.7%（△） <p>すべてで昨年度を下回ったが、生徒が授業を厳しく見ている表れでもある。教員の自己診断では「教材の精選・工夫を行っている」は96.6%である。生徒が主体の授業展開、目標・指導と評価の一体化について一層進めていきたい。</p> <p>イ・自習室は306人（○）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者の相談に適切にこたえる」は72.9%（△）。わからないと回答した保護者が20%存在することを重く考えたい。 ・「教育情報の提供の努力」は90.4%（○）。保護者あてメールが積極的に活用された成果である。 ・就職17人一次合格100%（◎）。 ・進路未定率1.3%（3/226）（△） ・漢字検定は3回実施し受験者69名（△）。二年間の空白を回復できなかった。 ・英語検定は今年度から校内実施をやめたため受験者が激減、32名、合格率47%（△）。ただし2級3名、準2級3名の合格者が出たのは評価できる。今後、検定試験の校内実施は難しくなる。 ・「他教科の担当者とは話し合う機会がある」67.2%（△）。 ・「各種会議が有効に機能」66.1%（△）。 ・「校内研修は教育実践に役立つ」71.2%（△） <p>観点別評価導入直前に比べ教科間連携が弱まった。職員室で教員同士が気軽に会話できる雰囲気大切にしたい。生徒支援委員会、いじめ対策委員会等、生徒の情報共有の場は有効に機能しているが、本年度は開催回数が例年になく多かったこともある。今年から導入したクラウドサービスを利用した情報共有を活用し、有効に機能させたい。校内研修については各分野の内容を精選して実施したが、働き方改革とのバランスもあり、さらなる工夫が必要である。</p> <p>ウ 自立支援コース生の希望進路実現100%（○）。</p> <p>大学進学を含め、全員が希望進路に進むことができた。関係機関との連携は、コロナ禍の影響も減少したもののまだ困難な点が多い。今後とも多面的な連携を続けていきたい。</p>

府立貝塚高等学校

<p>2 キャリア教育、人権教育の推進</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR等を活用して、3年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。 イ 「自分はどのように生きるのか」を考えさせ、「自分の生き方の指針」を生徒の中に作らせるための、人権教育とキャリア教育を推進する。 ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。 エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>(1) ア・ルーブリック評価を用い、生徒に課題達成目標を明確に示し、プレゼン活動を充実し、生徒のプレゼン能力の向上をめざす。 ・「産社」「総合探究」の時間を充実させるために、副担任も入り担任とTTで授業を行い、生徒がより深く将来の進路について考えられる環境をつくる。 イ・人権教育推進委員会を中心に、生徒の実情と社会状況に応じたタイムリーな人権教育を実施し、豊かな人権感覚を育てる。特に新型コロナウイルス感染者に対する差別・偏見を許さない姿勢を獲得させる。 ウ・「身だしなみキャンペーン」の時期だけでなく、いつでも面接試験を受けられる身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、生活指導は進路指導であることを理解できるようにする。 エ・基本的な生活習慣の確立のため、生活指導部中心に遅刻件数を減らすよう取り組む。 ・指導効果を上げるため、件数の多い生徒には保護者と協力しながら指導する。 ・教員間に「生活指導は学校全体で取り組む」姿勢を作るため、遅刻指導を生活指導部以外の分掌とも協力して取り組む。</p>	<p>(1) ア・自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」79.3%を80%以上に。 ・自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」85%以上に。 [R2 84.5%、R3 81.3%] ・自己診断(生徒)「進路や生き方について考える機会がある」。81.6%を82%に イ・自己診断(生徒)「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」85%以上に。 [R2 89.3%、R3 84.3%] ウ・自己診断(生徒)「先生の指導に納得できる」68.7%を70%に。 エ・遅刻件数を3900件未満にする。 [R3 4432件]</p>	<p>(1) ア・「考えをまとめたり発表することがよくある」74.9%(△)。観点別評価が導入された1年生は82.6%と、高い数値になっていることは評価できる。 ・「進路情報をよく知らせてくれる」82.7%(△)。 ・「進路や生き方について考える機会」80.4%(△)。3年生では82.5%(昨年71.2%)であり、進路決定にあたり考える機会が増えていることは評価できる。 イ 「人権の大切さについて学ぶ機会多い」は80.4%であった(△)。本校の根幹である「人権学習」は、日常の授業の中でも当たり前に取り上げている。HR等で今まで以上に系統立てて学べるよう計画する必要がある。 ウ 「先生の指導に納得できる」は66.2%(△)だが、2,3年生は68.6%であった。人間関係のできている上級学年ほど割合が高くなっているのは評価できる。 エ 遅刻回数は6569件と、昨年度の1.5倍近くになった(△)。コロナの影響で欠席・遅刻への「罪悪感」が減っていることも影響している。生活指導部だけでなく、学校全体として取り組んでいかねばならない。</p>
<p>3 自主・自律・創造力と協調・協働力の育成</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。 ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。 イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。 ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。</p>	<p>(1) ア・行事を通して多くの感動を体験することで、自己肯定感を高める。 イ・体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、協働する姿勢や他者を思いやる心を育み、仲間づくりを進める。 ・授業において、探究活動や発表活動を積極的に行い、自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。 ウ・海外の生徒の授業参加や生徒との交流行事を行うことにより、異文化に対する理解を深め、国際感覚を身に付ける。</p>	<p>(1) ア・行事満足度95%を堅持。 [R2 98.3%、R3 96.5%] イ・自己診断(生徒)「行事が工夫されて」85%以上を堅持。 [R2 88.8%、R3 89.5%] ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」85%を堅持。[R2 89.0%、R3 ANK未実施] ウ・海外の生徒の学校訪問を受け入れ、生徒との交流行事を複数回行う。[0回]</p>	<p>(1) ア・行事満足度は96.0%(体育祭98.6%、文化祭93.0%)(○)。 イ・「行事が工夫」88.7%(◎)。本校の特徴である「行事に一生懸命」が現れている。 ・総合学科アンケートは未実施であった(ー)。 ウ コロナ禍でできなかった国際行事が復活し、韓国と米国の高校生との交流が行えた(○)。交流イベントには有志生徒が約30人参加した。</p>

府立貝塚高等学校

<p>エ 生起した事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。</p> <p>(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。</p> <p>ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。</p> <p>イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p>	<p>エ・課題のある生徒に迅速かつ組織的に対応するために、生起した事案を年次団会議、教育相談委員会や年次連絡会で集約し、情報の共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題のある生徒に迅速かつ組織的に対応するために、年次団会議等で生徒の情報交換を密にし、常に情報共有に努める。 <p>(2)</p> <p>ア・地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、部活動で中学生を招いての合同練習や本校主催のカップ戦などを実施し、学校の取組みを外部の人に発信し、本校への理解を深めてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の幼稚園・小中学校や施設、と生徒・教職員の交流を積極的にすすめ、本校への信頼を深めてもらう。 <p>イ・Webページで、“生徒の活動の見える化”に取り組み、より本校の教育活動の魅力を知ってもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が積極的に関わる広報活動を進め、関わった生徒の自己肯定感を高める。 Webを活用した広報活動を推進し、より多くの人に本校の魅力を知ってもらう。 	<p>エ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なってくれる先生がいる」75%以上を堅持。[R3 76.4%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)「保健室等で相談できる先生いる」60%以上を堅持 [R3 61.8%] <p>(2)</p> <p>ア・中高の部活動交流の実施クラブ数(5部)以上。[R3 0回]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」64.3%を65%に。 地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会を実施。 自己診断(生徒)「地域や近隣の学校との交流がある」60%以上に [R2 52.8%、R3 57.5%] <p>イ・“写真でみる貝塚高校”と“校長ブログ”は月2回以上更新する。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての学校説明会で生徒が作成した成果物を活用し、生徒を参加させる。 学校紹介に関する動画を5種類以上掲載する。 	<p>エ・「悩みや相談に親身なってくれる先生いる」74.5%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「担任以外に保健室等で相談できる先生いる」53.7%(△)。 <p>担任が中心になって生徒に寄り添い日常的に対応しているからか、担任以外で相談できる先生についての肯定意見が少ない。SSWやSCは活用されており、チーム学校の取組を進めた結果、教員の自己診断「教育相談体制が整備」は78.9%と昨年63.9%から大きく増加した。生徒の認知度が低いのかかもしれない。来年度の課題である。</p> <p>(2)</p> <p>ア・貝高カップ1部を含め、部活動交流は3部(△)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」48.2%(△)。生徒の入部率の低下もあり、低迷している。 小中学校との教員の交流は、合同人権研修会のみ実施できた。 生徒の交流は、農業や体育での授業や絵本読み聞かせを行ったのにもかかわらず、「地域や近隣の学校との交流ある」49.5%(△)。選択科目を通じた交流が多いであろう3年生でも56.2%にとどまった。 <p>イ・12月までに33回更新(○)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会のポスター、案内、説明動画は生徒作品を活用できた。また、オープンスクールは生徒会の司会進行で実施できた(○)。 動画を5種掲載できた。さらに生徒会執行部の公式SNSを設置し、生徒の視線での動画配信も始めた(◎)。 <p>生徒会の中で本校を宣伝したいという動きが生まれてきたのは大きな成果である。</p>
--	---	--	---